

シラバス

指定番号 176

商号又は名称：株式会社建築資料研究社

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	① 研修に先立ち国の施策の動向や、キャリアパスを学び介護職の全体像をイメージさせる。 ② 多様なサービス内容を理解することで、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	4	4		《講義内容》 国の施策の動向と、介護・介護保険制度の意義を理解し、介護職のあるべきイメージを理解するとともに、科目構成と科目の相互の関連性等全体像を理解する。介護保険サービスと介護保険外サービスを理解する。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4		《講義内容》 多様なサービスと介護職の仕事内容・働く現場を理解するとともに、介護職の資格体系に見直しを図られた経緯や現行のキャリアパスを学ぶ。ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源の連携の学習。 《演習内容》 グループワーク（課題：訪問・施設等、それぞれの職場における介護の違いを理解し、グループごとに整理しそれぞれの仕事内容と役割を図式化する。）
(合計時間数)	8	8	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 176

商号又は名称：株式会社建築資料研究社

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援職務の理解			
指導目標	① 介護職が利用者の人権や尊厳を尊重し、自立支援を行う上での専門職であること ② 介護・福祉サービスを提供する上での基本的視点、してはいけない行動例の理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	6	6		<p>《講義内容》 介護職の基本理念である「基本的人権」及び「個人の尊厳」を尊重することの大切さを理解する。QOL、アドボカシー・エンパワメント及び介護におけるICF、ノーマライゼーションの理念等理解を深める。高齢者虐待防止法を理解し、身体拘束、および利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護を知る。個人の権利を守る制度、個人情報法保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業を学ぶ。</p> <p>《演習内容》 グループディスカッション（課題：人権と尊厳を守るとはどうか、守るためにはどうしたらいいのかをグループ討議の上、発表し理解を深める。）</p>
② 自立に向けた介護	4	4		<p>《講義内容》 専門職として求められる「自立」と「自律」の理解。自立支援のための介護方法および介護予防の意義と方法を学ぶ。</p> <p>《演習内容》 グループディスカッション（課題：事例を提示し、望める自立とは何か、そのためにどのような支援が適切か意見を出し合い発表する。）</p>
③ 人権啓発に係る基礎知識	3	3		<p>《講義内容》 人権を侵害する行為、擁護する行為など身近な事例を取り上げ、「人権」とは何かということを考えさせる講義を行う。</p>
(合計時間数)	13	13	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 176

商号又は名称：株式会社建築資料研究社

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	① 介護職に求められる専門性の理解を踏まえ、職業としての倫理観を向上させる。 ② 継続的に介護を行う為に必要なリスクマネジメントを知り、健康障害を未然に防ぐ為の対応策を知る。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	3	3		《講義内容》 介護職に求められる専門性と介護環境の特徴を理解し、利用者主体の支援、根拠ある介護等基本的な知識を学ぶ。異なる専門性を持つ専門職種と、多職種によるチームケアにおける機能と役割を理解する。
② 介護職の職業倫理	3	3		《講義内容》 法令遵守、利用者の尊厳と自己決定、及び日本介護福祉士会の倫理綱領等から介護の専門職としての社会的責任と姿勢、プライバシーの保護を理解する。 《演習内容》 グループワーク（課題：介護職の専門性を整理し、専門性を理解した上で発表。介護職の倫理観は何かを探る。）
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	2		《講義内容》 介護における安全確保の重要性と、リスクマネジメントを理解する。感染に関する正しい知識、感染予防及び危険予知と事故予防、事故発生時の緊急対応を具体的事例から学ぶ。
④ 介護職の安全	1	1		《講義内容》 介護職の健康管理の重要性を理解し、介護職に起こりやすい健康障害、腰痛、感染症の予防等を学ぶ。
(合計時間数)	9	9	0	
使用する機器・備品等				

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 176

商号又は名称：株式会社建築資料研究社

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	① 介護保険制度や障がい者総合支援制度の目的と、サービス利用の流れについての理解 ② 各専門職の役割・責務についての概要を学び、ポイントが列挙できるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	3		《講義内容》 わが国の社会的背景を理解し、介護保険制度の意義、成立と導入後の動向を学ぶ。また、制度の基本的仕組み、制度を支える財源、組織・団体の機能と役割、サービスの種類、利用の流れ、年金制度等を学ぶ。
② 医療との連携とリハビリテーション	6	6		(1)医療との連携 《講義内容》 服薬、健康チェック、ストーマ、経管栄養等の高齢者医療及び医療行為と介護、訪問看護等、看護と介護の役割・連携を理解する。 (2)リハビリテーション 《講義内容》 リハビリテーションの理念、意義、種類、経過等を理解する。 《演習内容》 グループワーク（検討） （課題：医療・リハビリテーション現場の事例や時事問題）
③ 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	3		《講義内容》 障がい者福祉の背景と動向を学び、障害者自立支援制度の仕組み・理念・概要と目的を理解する。また、成年後見制度、個人情報保護法、日常生活自立支援事業等個人の権利を守る制度の概要や目的も学ぶ。
(合計時間数)	12	12	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 176

商号又は名称：株式会社建築資料研究社

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	① それぞれの利用者のコミュニケーション能力に応じた対処の仕方を学ぶとともに、チームとしての情報の共有を図るにはどうすれば良いのかを理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	4	4		<p>《講義内容》 コミュニケーションの意義と目的、利用者・家族への対応、状況・状態に応じた手法と、コミュニケーションの技法・道具を用いた言語的コミュニケーションを学ぶ。</p> <p>《演習内容》 ロールプレイ (二人一組になり、言語・非言語コミュニケーションを体験する。)</p>
② 介護におけるチームのコミュニケーション	4	4		<p>《講義内容》 コミュニケーションを促す環境について学ぶとともに、チームにおける報告・連絡・相談、記録による情報の共有化を理解する。</p> <p>《演習内容》 グループワーク (課題：報告、記録の書き方等)</p>
(合計時間数)	8	8	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 176

商号又は名称：株式会社建築資料研究社

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	① 加齢や老化に伴う心身の変化や疾病について理解し、知っておくべき留意事項を学ぶ。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	4	4		《講義内容》 老年期の発達と心身の変化の特徴と心身機能の変化と日常生活への影響を理解する。
② 高齢者と健康	4	4		《講義内容》 老年症候群と生活上の留意点、及び高齢者に多い病気と生活上の留意点を学ぶ。 《演習内容》 グループワーク (課題：高齢者に多く見られる疾病を挙げ、訴えや症状への対応・対処法、生活上の留意点等をグループにて整理し表を作成する。)
(合計時間数)	8	8	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

(別添 2 - 2)

平成 30 年 12 月 17 日現在

シラバス

指定番号 176

商号又は名称：株式会社建築資料研究社

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	① 介護を行う上で認知症を理解することの重要性に気づくとともに、認知症の利用者を介護するときの判断基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	2	2		《講義内容》 認知症ケアの理念を理解し、パーソンセンタードケア・認知症ケアの視点を学ぶ。
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	3	3		《講義内容》 認知症の概念と原因疾患・病態を理解し、認知症の人に生じやすい身体的不調と健康管理を学ぶ。
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	2		《講義内容》 認知症の人に起こりやすい生活障害、心理・行動の特徴を理解し、利用者への対応を学ぶ。
④ 家族への支援	1	1		《講義内容》 認知症の受容過程の援助と、介護負担の軽減を理解し、家族との関わり方を学ぶ。 《演習内容》 グループワーク (課題:事例をもとに認知症家族の負担を知り、具体的な関わり支援の方法を提案し検討する。)
(合計時間数)	8	8	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 176

商号又は名称：株式会社建築資料研究社

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	① 障害の基本理念とICFの理解 ② 介護における障害者支援の基礎的な理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	2	2		《講義内容》 障がい者福祉の基本理念、国際生活機能分類を理解し、正しい障害の認識や知識を修得する。
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2	2		《講義内容》 身体障がい・知的障がい・発達障がい・内部障がい等の障がいをそれぞれ心理や行動の特徴から学び、障がいと障がい者を理解し支援方法を学ぶ。
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	2	2		《講義内容》 障がい者や高齢者を介護する家族の肉体的・精神的負担を理解し、家族への関わり支援を学ぶ。 《演習内容》 グループワーク（課題:事例をもとに障がい者(児)家族の負担を知り、具体的な関わり支援方法を提案し検討する。）
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 176

商号又は名称：株式会社建築資料研究社

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	① 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助とどの介護が実施できる。 ② 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	6	6		《講義内容》 理論に基づいた介護 (ICF に基づいた生活支援)、法的根拠に基づいた介護を理解する。
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	3		《講義内容》 学習の諸理論、記憶のメカニズム、感情と感情に類似する概念、思考と認知の概念、体力と意欲の関係等、自己概念と生きがいを理解する。
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	3		《講義内容》 健康チェック・バイタルサインのとり方、また、骨・関節・筋肉、自律神経と内部機関に関する基礎を理解する。
④ 生活と家事	6	6		《講義内容》 生活の捉え方、衣食住の環境整備等、生活と家事について理解する。
⑤ 快適な居住環境整備と介護	6	6		《講義内容》 「人と住まい」を理解し、高齢者・障害者にとっての住まいの性能について学び、介護保険による住宅改修及び福祉用具を学ぶ。 《演習内容》 グループワーク (課題：高齢者・障害者とバリアフリーを理解し、グループごとに「理想的な住まい」を提案、発表する。)

⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>《講義内容》 整容の、生理学的・社会的・精神的意義を理解し、具体的な整容行動と支援方法を学ぶ。</p> <p>《演習内容》 実技（衣服の着脱・整髪等身だしなみ）</p>
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	18	18		<p>《講義内容》 移動・移乗介助の意義と目的、福祉器具と利用方法、残存機能の活用と自立支援、体位変換の方法、利用者と介護者の安全・安楽な介助方法、また視覚障害者の歩行介助を学ぶ。</p> <p>《演習内容》 介護技術（車イス・杖等を用いた移動・移乗・歩行） 視覚障害者の歩行介助、体位変換</p>
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>《講義内容》 食事の意味・摂取の仕組みと加齢や障害に伴う様々な症状、用具・自助具の活用法、口腔ケアを理解し、楽しい食事の支援方法を学ぶ。</p> <p>《演習内容》 実技（食事の介助、口腔ケア、福祉用具の使い方）</p>
⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>《講義内容》 入浴と清潔保持（全身浴・部分浴）に関する基礎知識を学び、安心・安全な入浴介護・清拭介護を学ぶ。</p> <p>《演習内容》 実技（全身浴と部分浴、清拭、ケリーパッド洗髪）</p>
⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12	12		<p>《講義内容》 排泄の意義・メカニズム・排泄障害・失禁を理解し、排泄環境の整備・用具の活用方法と支援方法を学ぶ。</p> <p>《演習内容》 実技（ポータブルトイレ・差し込み便器・尿器・オムツ等を用いた排泄、及びベッド上の排泄の介助）</p>
⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	3		<p>《講義内容》 睡眠に関する基礎的知識を理解し、ベッドメイキングと環境整備、用具活用等による質の高い睡眠の支援方法を学ぶ。</p> <p>《演習内容》 実技（課題：ベッドメイキング、安眠介助のための環境・姿勢の提案・実践・検討）</p>

⑫ 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	3	3		<p>《講義内容》 終末期の身体的状況・心理状態を理解し、緩和ケアと多職種との連携、家族への支援方法を学ぶ。</p> <p>《演習内容》 グループディスカッション（課題：終末期をテーマに、緩和ケアの具体的方法と家族への支援方法について話し合い、発表する。）</p>
⑬ 介護過程の基礎的理解	3	3		<p>《講義内容》 科学的思考と介護過程を理解し、介護過程の展開に必要な構成要素を理解する。</p> <p>《演習内容》 個別援助計画書の作成</p>
⑭ 総合生活支援技術演習	12	12		<p>《演習内容》 複数の事例において、一連の支援を学ぶ。支援の際の視点、アセスメント、自立に向けた介護課程の展開方法を理解する。</p> <p>（事例別支援方法・総復習・事例を提示し、演習を行うことにより習得状況を確認する。）</p>
(合計時間数)	93	93	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導體制を記載すること。

シラバス

指定番号 176
商号又は名称：株式会社建築資料研究社

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	① 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	3	3		《講義内容》 研修全体を振り返り、学習したことと継続的に学習すべき事柄の確認。 《演習内容》 上記を踏まえてのレポートの作成
② 就業への備えと研修修了後における実例	3	3		《講義内容》 施設・事業所等現場における継続的学習等についての確認。キャリアパスやOJT等の理解を深める。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。